

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1072800442
法人名	有限会社サイタハウジング
事業所名	グループホーム「はるかぜ」
所在地	伊勢崎市田部井町2734-4 (電話) 0270-70-5711

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年9月2日

【情報提供票より】(平成21年8月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨系組立構造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費500円/日	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円

(4) 利用者の概要(8月 4日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	64歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齊藤内科医院、多賀谷歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、入居者に「生活主体者」になってもらつたため、自立支援の視点に立ち、日常生活の中でできる事を無理ない範囲で行えるよう促している。また、家族には入居者一人ひとりに月次報告書として、日々の生活状況、ケアプランの実行状況や状況変化に伴う計画内容の変更点、医療面の対応等について詳細に記録したものを渡し、説明することでホームとの信頼関係を築いている。さらに、地域密着型サービスと位置づけられて以来「お年寄り一人一人の生き方を尊重しながら地域との交流を深められるようなホームを目指す」という理念の下、地域や地域住民とのかかわりを着実に深めてきた。その取り組み努力により近隣への理解が進み、野菜を分けてもらったり、併設されたデイサービスに気軽に立ち寄り相談を受けたりする機会が増え、地域の介護拠点としての役割を果たしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果の課題点を改善シートにまとめ具体的に改善策を検討し、運営推進会議の意見を取り入れる等取り組める部分から改善に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が項目を確認しながら職員一人ひとりから意見をきき、特に項目内容に関連ある担当職員からは重点的に意見を出してもらいまとめ上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、区長、家族代表、入居者、地域ケアマネジャー、市職員等が出席している。会議では意見等が出やすいよう研修報告、介護保険やインフルエンザ等の話題取り入れ、そこからインフルエンザ対策について意見をもらい対応することができた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に、月次報告書で日々の生活状況、ケアプランの実行状況や状況変化に伴う計画内容の変更点、医療面の対応等について説明を行い、その際意見や要望、苦情がないか伺っている。意見や要望は申し送りや職員会議で話し合い、解消に努めている。また、運営推進会議やクリスマス会等のホーム行事後にも家族から気楽に話をしてもらっているが、直接言葉で苦情を伝えづらい場合も想定し、様々な意見の表出方法を検討することを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方からは野菜をもらったり、回覧板のコピーを回してもらっている。また、ホームの便りを配布して地域の方に理解してもらえるよう努めている。地域の文化祭へは作品を出したり、夏祭りには見学参加している。時には保育園児が遊びに来てくれる。食材等の買い物の際は、顔馴染みの店員が買い物の手伝いしてくれる等地域交流が広がりがつつある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待へのしたい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなってから、開設当初の理念に加え、「お年寄り一人一人の生き方を尊重しながら地域との交流を深められるようなホームを目指す」の理念を職員と話し合い作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、月例会議で、利用者一人一人の尊厳・プライバシーを守り、地域との交流を深め広げていきたい意向を職員に話し、理念の共有に取り組んでいる。また、職員も入居者との距離を考えた上で、気持ちに寄り添える介護を心がけ、地域からホームや入居者の理解が増すよう関わりを持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から野菜をもらったり、回覧板のコピーを回してもらっている。地域の文化祭へ作品を出したり、夏祭りに見学参加している。時には保育園児が遊びに来てくれる。食材等の買い物には、顔馴染みの店員が買い物の手伝いしてくれる等地域交流が広がりつつある。また、ホームの便りを配布して地域の方に理解してもらえよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が項目を確認しながら職員一人一人から意見を聞き、特に項目内容に関連ある担当職員から重点的に意見を出してもらいまとめ上げている。また、前回外部評価結果の課題点を改善シートにまとめ改善策を検討し、運営推進会議の意見を取り入れる等取り組める部分から改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、区長、家族代表、入居者、地域ケアマネージャー、市職員等が出席している。会議では意見等が出しやすいよう研修報告、介護保険やインフルエンザ等の話題も取り入れ、そこからインフルエンザ対策について意見をもらい対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には介護保険改正に伴う変更内容を問い合わせたり、直接支所に出向き「はるかぜ」便りを配布している。また、市が独自に開催するスキルアップ研修(認知症・労働管理等)を知らせてもらい参加するなど連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者一人一人に月次報告書として、日々の生活状況、ケアプランの実行状況や状況変化に伴う計画内容の変更点、医療面の対応等について詳細に記録し、面会時に説明し渡している。また、「ホーム便り「はるかぜ」」でホーム全体の内容を記載し、毎月の利用料請求書と同封して送付している。金銭管理は利用者毎に小遣い帳に収支や領収書を記録して、面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、月次報告書の説明を行いその際意見や要望、苦情がないか伺っており、その内容は申し送りや職員会議で話し合い、解消に努めている。また、運営推進会議やクリスマス会等のホーム行事後にも家族から気楽に話をしてもらっている。苦情相談窓口の設置や外部の相談窓口の連絡先を紹介している。	○	直接言葉で苦情を伝えづらい場合も想定し、様々な意見の表出方法を検討することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームは入居者のダメージを考慮した上で職場内の異動を行っておらず、離職する場合は事前に調整し新旧の職員が1ヶ月は共に働く期間を設けている。また、職員の介護に対する悩みや疑問に対して相談に応じたり、勤務表を職員で話し合っ作成してもらうなど働きやすい環境づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームはおおよその研修予定を作成し、職員希望の研修は優先して受講させている。また、入職1年目は必ず認知症高齢者基礎研修を受講させている。資格取得に向けての研修参加も積極的に推進している。研修参加後は全員参加の職員会議で報告し、報告書や資料は回覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの職員交換研修に年2回参加し、互いのホームの違いや良い点について報告し合い、良い点を取り入れることでサービス向上に役立てている。また、地域のグループホームの運営推進会議に参加してもらい、共通する課題や悩みを自覚することができ、交流することができた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には必ず家族も含めて見学していただき、なるべく一日過ごしてホームの雰囲気や入居者の様子なども見て、納得した上でサービス開始できるよう心がけている。また、入院等で見学できない場合は、職員が出向いてホームの説明や相談を受けて、本人の様子も伺っている。入居直後は不安解消のため、家族の面会を多くしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援の立場からも入居者と共にできる作業を重視しており、洗濯物干しを一緒に行ったり、調理方法や縫い物を教えていただくことがある。また、職員が落ち込んでいる様子を見て、入居者から声をかけてもらうこともあり、互いに支え合って生活していると感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりとの言葉のコミュニケーションで、思いや意向を捉え把握している。また、自ら多く語らない入居者や認知症の進んだ入居者で自身の思いを伝えづらい場合は、観察を重視してその入居者の行動や何気ない言動を多角的に捉え本人の希望を探り、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者家族からは面会時に意見を聞き、主治医からは往診時に意見を聞き、アセスメントや日頃の入居者の記録、担当職員からの意見を基にケアマネージャーが中心に介護計画を立て、月に一度のケアカンファレンスで全員で検討し作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者本人の状況に変化がなければ、6ヶ月の更新ごとに計画見直しを行っているが、計画期間中も入居者のわずかな変化やその対応策を会議で話し合っており、家族へ報告する月次報告書へ内容を記載し理解を得ている。また、計画で疾病悪化等で大きく変化した場合には計画を全面的に変更し、家族にも意見を伺い了承してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者家族が通院の付き添いが困難な場合等には、職員が付き添っている。また、買い物や外出も家族と連携をとり、要望に合った送迎を行う等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医の受診が、基本となっている。また、ホームの近隣医師がかかりつけ医となった場合でも、受診前には看護師が中心となり、本人・家族との連絡調整に努め、情報提供書の作成またはFAXでの情報提供を行っている。2週間に一度は近隣医の定期健診を施行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合について本人や家族の希望を伺っており、入院治療が必要な場合を除き、その都度家族と話し合い、介助量や協力してもらえ医療行為を考えて対応できるように取り組んでいる。また、看取りは現在積極的に行っていないが、医師等の医療面の協力体制を調整して取り組んでいきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助や入浴介助、また入居者の家庭内容等は、それぞれにプライバシーを尊重しなければならない事象として捉え、対応している。記録物は事務所内で保管し、重要書類は鍵のかかる書庫で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大まかな一日の流れはあるが、入居者それぞれのその日の体調や精神状態に合わせ、就寝・起床時間や入浴時間、リクリエーション等への参加等の希望が最優先されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を見極めて、食事準備や後片付けを一緒に行っている。また、検食する職員1名は、必ず食事を一緒にとり、時間はずれてしまうが他の職員も食事を一緒に摂る場合がある。節分の恵方巻やひなまつり時期には雛寿司にみたてた食事が用意される等季節感を取り入れる献立の工夫がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりゆっくり利用でき、月・水・金の利用と火・木・土の利用の週3回入浴できるようになっている。入居者のその日の体調や予定に合わせて随時変更したり、時間帯や毎日の入浴等の希望に沿うことができる。時期には、菖蒲湯やゆず湯も準備され入居者も楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を考えて、掃除や洗濯物干し、食事準備や野菜作り、草むしり等の役割をもって行ってもらっている。また、傾聴ボランティアの受け入れや外出行事や誕生日会などを実施し、日々張りのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は気候や時期にあわせ計画し、概ね月1回は花見や買い物、外食等に出かけている。また、入居者の希望や状況を見ながらホーム内の敷地を歩いたり、周囲を散歩することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは玄関に鍵をかけることの弊害を理解しているが、帰宅要求の強い入居者とその入居者と行動を共にしてしまう入居者の観察・把握が困難で、交通量の多い道路も近いため万が一の事故等を危惧し、やむを得ず施錠している。	○	今後施錠することが習慣化することのないよう、入居者状況の細微な変化を捉えて対応し、入居者に心理的な圧迫感のない鍵をかけない対策について工夫、実践されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防対策のマニュアルがあり、それに沿ってデイサービスと合同で年2回の避難訓練を実施し、消防署の指導のもと避難場所や経路の確認、消火訓練を行っている。近隣住民は訓練に参加されていないが、ホームから働きかけを行い、近隣住民も災害協力の理解は示している。また、職員が地元消防団で活動し、施設を知ってもらいきっかけをつくっている。災害時の食料は、水や缶詰等が備蓄されてる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師免許を持つ職員が中心になり、献立をおこなっている。糖尿病などの治療食に関しては、主治医の指示にてカロリー等の配慮をしている。食事摂取量や水分摂取量は、個人の記録に記載し把握している。入居者の咀嚼能力や体調によって、食事形態を変えるなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、入居者や職員の写真が飾られたり、入居者と共同作成した作品も飾られ、和やかな雰囲気を感じさせる。また、ホームから見える畑には、季節の野菜が育つ様子が確認でき成長を楽しむことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者それぞれの居室は、家族の写真が飾られていたり、馴染みのダンスや本や本棚が持ち込まれていたり、机を持ち込み静かに執筆できるように配置されたりしている。また、植物や花、大きめの鏡を用意して身だしなみを整えたり、それぞれが落ち着いて生活できるような工夫がなされている。		